

ほけん通信

傷から細菌が入って起こる感染症に注意

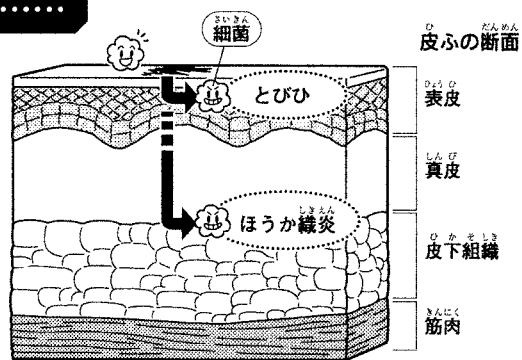
指導 神奈川県立こども医療センター 皮膚科 部長 馬場 直子 先生

黄色ブドウ球菌は、私たちの身の回りにふつうにいる細菌で、ふれただけでは特に何も起こりませんが、皮膚にできた傷から体内に入ると、さまざまな感染症を起こします。そのため、傷ができたなら、細菌が入らないように清潔を保つ必要があります。しかも、すり傷や切り傷だけでなく、かゆみが出て皮ふをかいてできる傷からも細菌が入るため、注意が必要です。

傷口から細菌が入ると……

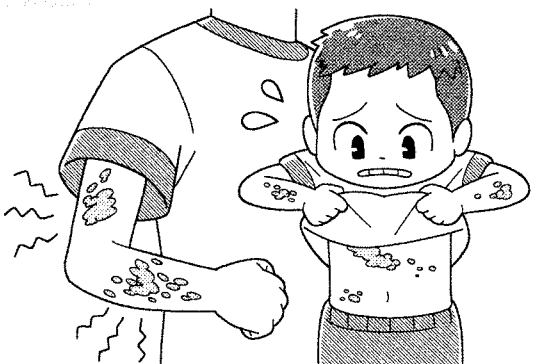
傷口から細菌が皮ふの中に入ると、「とびひ」や「ほうか織炎」などの皮ふの感染症を起こすことがあります。

皮ふは、右の断面図のように、表皮・真皮・皮下組織の三層で、筋肉をおおっています。とびひは、表皮で感染して起こりますが、ほうか織炎は皮下組織の近くで感染することで起こります。



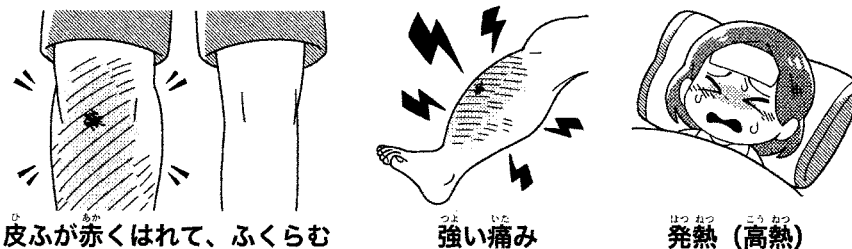
とびひ (伝染性のうかしん)

皮ふにふつうにいる細菌のひとつである黄色ブドウ球菌などが、皮ふのいちばん外側にある「表皮」が傷ついて感染して起こる感染症です。感染すると、皮ふがはれたり、水ぶくれがでたりします。はれや水ぶくれができた部分にふれた手で、ほかの部分の皮ふをさわること、症状が全身に広がり、その手でほかの人にふれることで、さらに感染が広がっていきます。



ほうか織炎

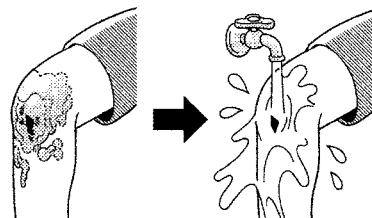
ほうか織炎は、黄色ブドウ球菌が傷口などから体内に入り、皮ふのおくにある皮下組織に感染することで起こります。皮ふのおく深くで感染して起こるため、ほかの人に感染を広げることはありませんが、傷口などの感染したところの周囲が赤くはれてふくらみ、痛みが出て、高熱が出る場合があります。



上に挙げた症状が出たときは、すぐに病院でみてもらいましょう。

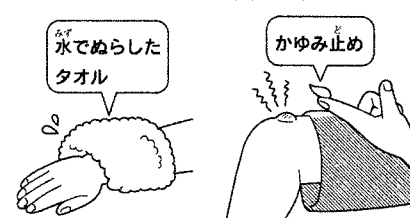
ほうか織炎を予防するには

傷口の清潔を保つ



すり傷や切り傷ができたときは、すぐに流水で洗い、傷口やその周囲のよごれを落として、清潔な状態を保ちます。

手で皮ふをかきこわさない



かゆみが出たときなどに手でかくことも傷はできるので、冷やすか、かゆみ止めを使ってかゆみをおさえましょう。

細菌に対するていこう力 (めんえき力) をつける

ほうか織炎は、傷口だけではなく、皮ふの毛穴などから細菌が入って起こることもあるため、けがをしなくてもほうか織炎を起こすことがあります。

そのため、毎日早起きや早ねをして、ぐっすりとしみんをと、栄養バランスの良い食事とすることで、細菌に対するていこう力をつけて、もし皮ふの中に細菌が入っても、感染をおさえられるようにすることも大切です。

